

第2学年 保健体育科学習指導案

保健体育研究室
(男子48名)

1. 単元名 「タグラグビー」(12時間計画)

2. 運動の特性

(1) 一般的特性

タグラグビーは、学習指導要領においては、その他のスポーツとして、学校や地域の実態に応じて取り扱うことのできるスポーツという位置付けとなっている。特性としては『相対する2チームが楕円のボールを持って走り、パスをつないで攻めたり、相手に突破されないように守ったりしながら得点を競い合うのが楽しい運動』である。サッカーやバスケットボールなどのボールゲームよりも難しいスキルを要しないチームスポーツなので、運動が苦手な生徒でも活躍できるチャンスがある。また、チームで練習方法を工夫したり、作戦を立てたりしながらゲームを組み立てていく中で学び合いを深めることができる運動である。

(2) 生徒から見た特性

A 楽しさ体験(運動の特性に触れる楽しさ体験の状況)

アンケートでは、43名の生徒が球技を好きと答えており、好きな球技の型についてはゴール型が15名、ネット型19名、野球型10名とわかれた。タグラグビーに関しては、34名の生徒が今までにタグラグビーを経験している。4名の生徒はタグラグビーがどんな競技であるのか知らない状態であった。ガイダンスでタグラグビーについて説明したところ、パスを投げることやタグを取ることに興味を示している生徒が多い。また逆にパスを横や後に投げることやタグを取ることを難しそうだと感じている生徒も多い。

B 技術の習得状況

昨年度のハンドボールの技術習得状況を参考にしてみると、ボールを投げるのが得意な生徒は19名、ボールをキャッチするのが得意な生徒が23名、ドリブルでディフェンスをかわして動くのが得意な生徒が13名、マークした相手をディフェンスするのが得意な生徒が18名、ドリブルを使って前に進むのが得意な生徒が15名であった。はじめて授業の中でボールやタグを使ってゲームを行ったところ36名がボールをもって走る場面があった。タグ取りも11名ができた20名がだいたいできたと答えている。

C 学び方に関する学習経験の状況

本学年の生徒は全体として明るく活発で、保健体育学習の他、体育行事や運動部活動等への意欲もあり、運動・スポーツに対する興味・関心が高く、学習規律を集団としてよく守り、学習に取り組む生徒が多く見られる。本学年の生徒は、1年生で球技領域として男子はハンドボール、女子はバレーボールを必修種目として学習している。チームので作戦を考え練習やゲームを自主運営で進めることができるようになった。2年生では、種目選択を取り入れ1学期は水泳と陸上競技の選択学習を行った。2学期の球技は、男子はタグラグビーとバレーボール、女子はバスケットボールとバレーボールでの選択学習を行う。タグラグビーを選択したほとんどの生徒が小学校でタグラグビーを経験している。タグラグビーは好きだが、ボールコントロールやディフェンスは苦手と感じている生徒が多い。

3. 学習を進めるにあたって

本単元ではラグビーの戦術的集団技術と高度な戦術的集団技術を身に付けさせたい。学習過程の中でミニゲームⅠ, ミニゲームⅡを提示し, そのなかで個人及びグループの力を知り, それを生かすための戦術を工夫させることで, パスがうまく通ったり, タグを取ることができたり, トライが決まったりする喜びを経験させたい。

ガイダンスで視聴覚教材を使いラグビーについての説明を行う。ルールの説明、練習内容の紹介を行い、めあて1につなげる。めあて1では、ミニゲームⅠで戦術的集団技術を高めながら仲間と協力し、ゲームを行うことをねらいとし、ミニゲームⅠのなかで習得した戦術的集団技術をゲームで実践させ、ラグビーの楽しさに触れさせたい。そして、ゲーム後のミーティングでは、必ず活動の振り返りを行い、ミニゲームⅠが生かされているかどうか、できなかったことなどを確認させたい。めあて2では、チームに応じた攻撃や防御を考え、戦術的集団技術を生かしたゲームを行うことをねらいとする。ミニゲームⅡのなかでチームでできるサインプレーを考えて練習を行い試合で試していく、またチームのディフェンスの方法を確認してチーム内で共通理解する。

ゲームでは、成功した戦術を学習ノートของเกม分析や個人カードを参考にして振り返らせ、新しい戦術の工夫させる。最後に活動を振り返らせ、単元のまとめをさせる。

○支援

ガイダンスの時間を使いパス、タグなどの個人技術を高めていくための練習方法や戦術を数例紹介する。次にミニゲームを紹介し、それを基に戦術を工夫させゲームにつなげさせる。ミニゲームが生かされた場面を全体場で知らせていくようにする。

学習資料としては視聴覚教材を準備し、チームとしての動きの参考にさせていきたい。また、必要に応じてビデオを使い、自分たちの動きを振り返らせていきたい。

単元を通して学習ノートを活用し、チームでの練習が試合で生かされているか振り返らせていく。練習が工夫できているチーム、作戦がうまくいっているチームを紹介し、賞賛することで学習意欲や支持的風土を盛り上げていきたい。

4. 学習のねらいとみちすじ

(1) 学習のねらい

ラグビーの戦術的集団技術を身につけ、みんなで協力して、自分たちのチームの課題や対戦相手に応じた 作戦などを工夫しながらゲームを楽しむ。

(2) 学習のみちすじ

めあて1…戦術的集団技術を高めながら仲間と協力し、ゲームを行う。

めあて2…チームに応じた攻撃や防御を考え、戦術的集団技術を生かしたゲームを行う。

5. 単元計画

	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12
活動	はじめ		ねらい1 戦術的集団技術を高 めながら仲間と協力 し、ゲームを行う。			ねらい2	チームに応じた攻撃や防御を考え、戦術的 集団技術を生かしたゲームを行う。					ま と め

5. 本時

平成18年10月10日(火) 5時間目 中学校運動場

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、ラグビーの特性とルール、個人技術・集団技術を学び、ミニゲームⅠをする中で個人及びチームの力を把握してきている。その中で、パスやラン、キャッチの技術を十分に身につけていない生徒もいるが積極的に練習に取り組んでいる姿が見られる。全体としては一つ一つの技術の練習に興味を示している。ミニゲームⅠの3対2では攻撃の方法を積極的に考える活動が見られ前時よりミニゲームⅡのワンプレーゲームをおこなっている。本時では、チームで考えたプレーを練習しミニゲームで試してみる、そのなかで成功したものをチームのサインプレーとしてゲームの中で生かそうとすることをねらいとしている。学習ノートにゲームの中で作戦を試した回数、成功した回数を記録させチームの達成状況や試合記録、つまずきの把握などから解決策を話し合い、練習やゲームに取り組ませたいと考える。教師の支援として、練習やゲーム等の活動を観察し、ポイントの助言や技術指導を行い、場に応じた評価をしていきたいと考えている。

(2) 主眼

グループで考えた作戦を練習しミニゲームⅡで試しゲームで生かせるようにする。

(3) 準備

- ①めあてを書いた掲示物 ②グループノート・筆記用具 ③作戦板 ④ラグビーボール
⑤タイマー ⑥カラーゼッケン ⑦タグ

学習活動・内容	準備	目標達成 ための手だて	形態	配時
1. 学習の準備をする ・挨拶、出欠・見学忘れ物確認、健康観察 ・本時の学習のめあて確認 〈学習のめあて〉 チームに応じた攻撃や防御を考え、集団技術を生かしたゲームを楽しもう。	①② ⑥⑦	○見学者への指示 ○全員で協力しコート準備する。 ○前時までの学習をふり返り、本時のめあて確認し意識付けをする。 ○学習のめあてにそったチームの目標を立てさせ、授業の見通しをもたせる。	一斉	5
2. チームに分かれる ・ミーティング ・チーム練習	③④ ⑤	○ミーティングで練習の内容を確認する。 ○課題解決に向けた練習への意識付けをする。	グループ	10
3. ミニゲームⅡ	⑤⑦	○チームで考えたプレーを生かした攻防ができるように確認させる。		10
4. 本時の成果を確認するためのゲームを行う 【ゲーム】7分×2 Aコート 1組vs2組 Bコート 3組vs4組	⑤⑥ ⑦	○前半Aチーム7分、後半Bチーム7分でゲームを進行させる。 ○チームで考えたサインプレーを積極的に試していかせる。	グループ	20
4. 本時のまとめ ・ミーティング ・全体での発表とまとめ	①②	○良かった点・改善点に基づき、次時への意欲を持たせる。	グループ 一斉	5

